

# 2013年度 環境マネジメントシステム

## ●総合研究所ごとの報告は今年度が最後

2014年度からは、三総研統合EMSがはじまり、三総研全体の目的・目標を制定し、運用しています。それにもない、2013年度は、一年間のEMSについての報告を各総合研究所で行う最後の年となりました。

本レポートは、サービスイノベーション総合研究所、情報ネットワーク総合研究所、先端技術総合研究所の順に、2013年度の目的・目標と実績、環境負荷全体像、環境教育、環境に貢献する研究開発、内部環境監査、省エネ・省資源活動、廃棄物の適正管理活動、環境汚染防止活動、情報公開、地域とのコミュニケーション、職場環境づくりなどを報告します。

## ●各総合研究所の活動実績の概要

NTTグループでは、環境負荷が小さく、かつ社会の環境改善効果のある研究開発成果の創出を目標として、2000年に「グリーンR&Dガイドライン」を制定しました。そして、NTT研究所は、この「グリーンR&Dガイドライン」に基づいて2008年に「研究開発成果グリーンアセスメント詳細ガイドライン」を制定しました。それに基づき、ハードウェアだけでなくソフトウェアの研究開発に対しても、初期段階と完了時に2回のグリーンアセスメントを実施することとし、環境改善を図る取り組みを強化しています。

また、NTT事業やお客様に提供する研究開発成果が、どれだけ環境に貢献できるかを明らかにするため、ライフサイクルアセスメント<sup>※1</sup>の手法を用いた定量的なCO<sub>2</sub>排出量の評価を行っています。2013年度は、サービスイノベーション総合研究所1件、情報ネットワーク総合研究所4件の評価を実施しました。

省エネルギーの取り組みとして、武蔵野研究開発センタでは、電力見える化システムにより電力使用量をリアルタイムで計測し、その結果を社員へ公開しています。計測結果は、居室ごと、実験室ごとにグラフ化し、省エネ施策効果の確認と社員の省エネ意識向上に活用しています。また、武蔵野Challenge25プロジェクト事務局を

中心として、全社員が節電施策活動に取り組んでいます。

化学物質の適正管理として厚木研究開発センタでは、生活系・工程系排水の水質監視の実施や、IASO<sup>※2</sup>による全共通薬品の適正使用と保管の運用を行いました。研究活動に伴い、さまざまな薬品や化学物質、金属などを使用していますので、こうした物質は、取り扱いを誤ると、環境に大きな負荷を与えてしまう場合があるため、化学物質の適正管理と保管に取り組んでいます。

生物多様性保全の取り組みとして、横須賀研究開発センタでは、周辺の生き物観測を実施し、生物多様性の保全と持続可能な利用に係る認識の向上を図りました。

武蔵野研究開発センタでは、センタ内の野草・山菜等繁殖状況のマップ作成最新化や昆虫の生態系保護のためにグラウンド奥にて穴を掘り枯葉埋設を実施しました。

厚木研究開発センタでは、森の里連絡協議会において、NTTと厚木市との間で生物多様性の環境保全活動について情報交換していることを紹介し、協議会参加者より協力の賛同を得ました。



武蔵野研究開発センタの草花  
白とピンクのねじばな

※1 ライフサイクルアセスメント：製品の製造から使用、廃棄までのライフサイクルにわたって使用されるエネルギー（電力など）や投入される原材料（天然資源など）と環境へ排出される物質を定量的に分析し、環境への影響を解析する手法のこと。このうちCO<sub>2</sub>排出量に着目した定量的分析をLCCO<sub>2</sub>という。

※2 IASO：薬品管理支援システム。薬品一本一本を個別に管理し、「いつ」「誰が」「どこの」「どんな目的で」「どれくらい」使用したかを簡単な操作で記録し、在庫リスト、使用量集計リスト、PRTRリストなどの確認が行える。